

第六回 阿波しらさぎ文学賞 開催

徳島新聞社との共同主催にて実施している掌編小説コンクール「第六回阿波しらさぎ文学賞」の応募が六月に締め切られ、八月中旬に受賞者が発表された。受賞者の皆様にはお慶びを、ご応募いただいた皆様には感謝を申し上げます。

応募作品は四二七点で、昨年より四三点減ったものの、第一回から六年連続で四百点を超えた。

応募は全四一都道府県のほか、海外からも寄せられた。徳島県内からの応募は一二三点で、東京都が八七点、神奈川県三二点、大阪府二十点と続いた。徳島県出身者からの応募は二九点だった。海外からはイギリスのロンドン、フランスのモンペリエから二点の応募があった。

幅広い年代から応募があり、最年少は十歳、最高齢は九一歳。平均年齢は四四・五歳だった。徳島文学協会賞の対象となる二五歳以下の作品は八八点だった。

会社員や学生らを中心に、教師、医師、理学療法士、主婦・主夫、公務員、僧侶、美容師、画家、林業従事者など、応募者の職種も多彩である。

応募作品は、徳島文学協会による一次選考を経て、吉村萬壺さんと小山田浩子さんの芥川賞作家の二人、

木下一夫徳島新聞編集局長、佐々木義登徳島文学協会会長による最終選考が行われた。

受賞作は八月一七日付の徳島新聞朝刊にて発表された。受賞作は徳島新聞紙上と電子版、徳島文学協会の文芸誌『徳島文学』に掲載される。大賞の阿波しらさぎ文学賞作品は徳間書店の『読楽』にも掲載される。

授賞式は徳島新聞社にて九月九日に開催される。記念行事として、芥川賞作家の吉村萬壺さんと小山田浩子さんをゲストに文学トークを開催する。

◆授賞式と文学トークのご参加について
徳島文学協会会員の方は、当日会場受付で会員とお伝えいただくところ入場可能です。ぜひご来場ください。



徳島文学協会が 第十三回地域再生大賞 優秀賞を受賞

地方新聞四十六紙と共同通信が、地域活性化の取り組みを表彰する「第十三回地域再生大賞」創ろう新時代 希望掲げて」の各賞五十団体が一月二十八日に決定され、徳島文学協会は優秀賞を受賞いたしました。

作家養成講座を開講し、受講生から全国公募の文学賞受賞者が相次ぎ誕生していることや、会員のハイレベルな作品とともに芥川賞・直木賞作家の書き下ろしを掲載した本格的な文芸誌を発行するなど、地方から文芸文化を発信し続けていることなどを評価していただきました。

この度の受賞は、会員の皆さまのお力添えの賜物です。今後も皆さまとともに、徳島の地から文芸文化を盛り上げて参ります。

徳島文学六号

『徳島文学』第六号が四月に発刊されました。

地域の文化振興を目的として活動している徳島文学協会のフラッグシップとして創刊された『徳島文学』ですが、今号もプロアマ問わず才能ある書き手の作品を徳島県内・県外関係なく掲載し、地方の文芸誌としては類を見ないクオリティの雑誌に仕上がっています。

巻頭俳句として野口の理さんの作品を掲載しました。吉村萬壺さんのイラスト、若松英輔さんの批評エッセイ、大滝瓶太さんの散文のほか、小説作品として中川マルカさん、田中さるまるさん、なかむらあゆみさんといった今注目の書き手の作品も掲載しています。

田丸まひるさん、紀野恵さん、涼野海音さん、うっかりさんと常連の短詩系の書き手の作品も充実しています。久保訓子さん、高田友季子さん、菊野啓さん、北迫薫さん、谷田七重さんといった徳島文学協会のメンバーも力を発揮しました。

また今年から「阿波しらすぎ文学賞」「富士正晴全国高校生文学賞」

発刊しました

に加え、「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」受賞作も掲載しています。

発売開始からたくさんの方にお求めいただき、SNSでも話題になっていきます。ぜひ存分にお楽しみいただければ幸いです。

■好評につき在庫数が残りわずかになりました。徳島県内では書店（平惣さん、紀伊屋屋さん、附家書店さん）にてご購入ください。Amazonでの発売は在庫がなくなり次第終了させていただきます。みなさまありがとうございます。



徳島文学 6号



6月20日付徳島新聞朝刊にてご紹介いただきました

『徳島文学 Volume 7』

二〇二四年春、発行。

徳島文学協会発行の文芸誌『徳島文学 Volume 7』の原稿を募集します。

徳島文学協会では、年一回文芸誌を発行しています。芥川賞作家や直木賞作家、プロの文学者を筆者に招き、地方の文芸誌としては類を見ない商業雑誌に匹敵するクオリティの雑誌を目指します。会員の皆さまの優秀作品をプロの作家と同じ誌面に無料で掲載いたします。皆さまの傑作をお待ちしています。

◆応募資格

徳島文学協会会員限定

◆応募方法

全作品メールにて受付

縦書きを原則とする。テキスト形式 (.txt) か、Microsoft Word (.doc, .docx) のデータをメール添付で左記アドレスに送付。
society@t-bungaku.com
メールアドレスに「徳島文学7号応募作品」と記載

◆締め切り

二〇二四年一月十日(水)

詳細はホームページにて

<https://www.t-bungaku.com/introduction/bungaku07.pdf>



◆原稿規定

■「1」ラム

二〇文字×六六行以内
(タイトル・著者名を除く)、
テーマ不問

■一般文芸作品

小説・評論・随筆・詩・
短歌・俳句など広義の
文学作品、および書評
などの未発表作品

◆お問い合わせ

徳島文学協会事務局／
徳島文学制作実行委員会
電話 080-6284-0296
(日曜祝日を除く九時～十七時)

原稿データの作り方
【表記方法について】

表記方法については標準的な体裁があります。徳島文学協会が発行する『徳島文学』や『とと』では基本的に、小説やエッセイ、コラム等の原稿はこの体裁に準じて校正を行なっています。

投稿の際にはこの体裁に準じて、データを作成してください。

●数字は漢数字を使用

●感嘆符・疑問符 ! ? のあとは全角アキ

●リーダーとケイについては「・・・」や「」ではなく「二分」「……」「」とする。

2022年度

徳島文学協会会計報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

収入総計	2,160,286円
支出総計	-2,030,879円
差引残高	129,407円

「ふく」：古代エジプト文明の知

恵の神「アト」に由
来する。

文学イベント「私のイチオシ本」を

開催しました

一人一冊お気に入りの小説や漫画などを持ち寄って、作品の魅力をプレゼンする「私のイチオシ本」というイベントを三月十一日に開催しました。ブレゼン後の投票で、菊野啓さんの紹介した田坂広志著「死は存在しない」最先端量子科学が示す新たな仮説」が最も読んでみたい本一位に選ばれました。菊野さんによる同書の書評を掲載します。

死後の世界はあるのか？

菊野啓

あなたは死後の世界の存在を信じますか？ この問いに、どう答えるかによって、私たちは大きく三つの立場に分かれる。第一は「科学的否定論」であり、現代の科学が主張するように、肉体（脳）の死とともに意識も消失し、すべては「無」に帰するとする立場。第二は「宗教的肯定論」であり、古くから多くの宗教が前提とするように、死後も意識は存続し、「天国あるいは地獄」で生き続けるとする立場。第三は「半信半疑論」と呼ぶべきもので、どこかにその存在を信じたい（墓参りや神社・仏閣参拝はする、または神秘的な現象を体験したことがある）という思いはあるものの、科学が明確に否定するため、積極的

には信じられないという立場。第一の唯物論的科学的立場は、世界のすべては「物質」の性質から説明できるとするが、現代の最先端科学、特に量子科学の世界を究めていくと、そもそも、その「物質」そのものが不確かな存在であり、極微のレベル、原子よりも遙かに小さな「素粒子」のレベルで観察するならば、例えば光子のように「物質」としてよりも「波動」の性質を示すようになる。量子科学では、この世界の本質は「波動」すなわち「エネルギー」であると認識されている。また、いかなる物質も存在しないとされる「真空」は、じつは「無」ではなく、「量子真空」と呼ばれる膨大なエネルギーが潜む場所であり、その中から素粒子が生まれてきては消えていく、実在の領域であることが証明されている。つまり、

素粒子の奇跡的な凝集の結果として生まれた人間は、死ぬと分解されて微小な素粒子となり、そこへ還ると考えられる。だとすれば、この「量子真空」素粒子の場」こそが死後の世界となる。「死」はないということになる。この膨大な素粒子の貯留の場は、「波動」の性質を利用して、現実の世界とも密接に関係するらしい。これによって宗教の得意とする神秘体験や意識の不思議な現象（視線感応、予感、予知、既視感など）を説明することもできると言う。量子科学は水と油であった「科学」と「宗教」の橋渡しとなる可能性をも秘めているのだ。本書は以上のようなことが、平易な文章で丁寧に説明されており、漠然と「死」への恐怖を感じている方に、有益な発想の転換をもたらすかもしれない。



田坂広志 著
最先端量子科学が示す新たな仮説
「死は存在しない」最先端量子科学が示す新たな仮説
田坂広志 光文社新書

「エッセイ」 超結社句会の底力

涼野海音

俳句の基本が分かった者が、結社の一句会に参加するだけで、超結社句会に消極的なところに（視野を広げるための勉強を怠っていないところに）、現代俳句の貧しさの一因があるように思う。自らの不勉強を、師系や句の傾向の違いに責任転嫁して、超結社句会を避けているのではないだろうか。おそらく結社で学んだものが薄まるから、超結社句会へは参加しないという方もいるだろう。だが、そんなに簡単に薄まるものが「真の個性」とはどうていえない。私は毎月、全国的な俳句賞の受賞者の方と通信句会をしているが、みな超結社句会に積極的である。その一方で、他結社の所属者にも、句会をオープンにしている指導者は実に少ないように思われる。特に地方では超結社の視野をもつ指導者は、残念ながらも

とんどいないようである。昨今、結社の分裂が急速に進み、句会の「蛸壺化」も一層顕著なように思う。私は会社員の傍ら、通信句会を含む六つの超結社句会（全国から出句可。特定の結社に所属の必要なし）を運営している。「足は地元」に、目は全国に」を motto に、香川を拠点に毎月、全国の方約百三十人と句会をして、はや十年が経つ。その成果として「俳壇賞」「俳人協会新人賞」「俳句四季新人賞」など、全国的な俳句賞の受賞者を二十名ほど輩出することができた。「俳句は堂々と。全国に通用する俳句力」とは、初学の師である伊藤通明の教えである。全国を見据えた超結社句会を通して、私は師の教えを実行しようと志したのである。結社で俳句の基本を学んだら、積極的に超結社句会に参加すべきである。「守破離」という言葉があるように、守ってばかりでは俳句は一向に進歩しない。

【エッセイ】
『ソラとミドリのまにまに』

元木理恵

海陽町穴喰の竹ヶ島周辺の海は、エダミドリイシの北限にあたる。自然が豊かで、様々な天然記念物や古い歴史を感じさせられるものがあるのが、海部郡だ。徳島県の中でも有数の大きさを誇る大里二号墳や徳島三滝の轟の滝、穴喰浦の化石漣痕、牟岐大島のニッポンタチバナの群生、アオサギのコロニー、日和佐の恵比寿洞……自然が作り出した数々の遺産が海部郡にはあまたある。その遺産と共に日常を営む人々が存在するのも、海部郡の特徴である。人々は、海に感謝し、山を敬愛し、里には思慕の念を抱く。その中で、多種多様な恵みを受けながら生きる。その状況であるということだけでも、すでに演劇的であるにも関わらず、そこで日常を過ごす人たちのセリフや行動によって、より土地と人や人と人との関係性を強烈に——しかしながら静かに——見せることができるのが、演劇という表現方法なのであると思う。

一幕一場で構成した脚本『ソラとミドリ』のまにまに』は、この海部郡の土地の土台があつてできた作品であると言える。ここに登場するのは、数人の高校生と大人だが、それは、この駄菓子屋の前の場所の切り取りにしかすぎ

ないのにも関わらず、場面は展開していった。海部郡の持つ人と人や自然と人の距離感がもたらす、言葉になりえない関係性——そのような「海部郡」という土台の上で、それぞれの人生は、ミルフィーユのように重なり合い、そこでドラマの静かな摩擦を醸し出しているのである。『ソラとミドリ』のまにまに』は、どこにでもある日常の一つでありながら、それをクローズアップし、「わざわざ」舞台にあげることで、日常におけるドラマ性を見せることができた。

土地に生きること——根付くことは、土地との対話で内省し、また外から自分を見つめることになる。それを作品の一部にはめ込んでいく。ふるさととは、いつまでも自分を育ててくれるものだと、その恩恵に心から感謝する。



元木さんは脚本『ソラとミドリのまにまに』で第20回とくしま文学賞 脚本部門 最優秀賞を受賞されました。写真は協会会員で、同じくとくしま文学賞随筆部門最優秀賞受賞の赤松さん、優秀賞受賞の松尾さん、短歌部門優秀賞受賞ののやまさん、徳島文学協会佐々木会長とともに。

【詩】
ありがとう

片桐 一彦

スープを飲む
その、あたりまえ
あたりまえじゃないんだ
あたりまえに あたりまえがおこる
それは何万人、何百万人の
手によるものなんだ
すなおな きもち
けんきよな ころろに
かんしゃのころろが生まれ
愛が生まれる

【詩】

須賀 佳苗

わたしよりも わたしを知っている
ころろの奥 大切にしたいものを
そつと 照らしだす
そんな言葉たちが
寄り添い
慰め 労り
促し
あたらしい日々へと
導いてくれるとき
性懲りもなく また
生きよう と思う

掲載作品募集

会員の皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

「ニューズレター」「とと」

原稿はワード形式で事務局へお送りください。(送信時には件名に『とと掲載用』と入れてください)

- ◆ エッセイ等 八百字以内
- ◆ 詩 四百字以内
- ◆ 短歌 三首以内
- ◆ 俳句 三句以内

「とと」は年二回発行ですが、一回につき掲載できるのは四作品程度です。先着順で掲載できない場合は次号に回します。

ホームページ「作品広場」

原稿はワード形式で事務局へお送りください。小説、エッセイ、評論、児童文学、詩、俳句、短歌などオリジナルの作品に限ります。

最新掲載作品

川柳 「今、未来」のやまきのこ

作品、募集要項はホームページで
<https://www.t-bungaku.com/plaza.html>



みんなの文芸誌「カクヲタノシム」vol.4 原稿募集

どなたでも無料でご参加いただける特集ページもご用意しました。

※全特集に参加できます。但し一つの特集には一人一作まで。
 ※特集②と③は、メールのみ受付
 『カクヲタノシム』と記載

特集3

フリー四百文字

エッセイやコラム、近況や活動報告、短歌や俳句・詩などの作品発表の場にも、自由にお書きください。
 ●タイトル
 ●お名前(ペンネーム可)
 ●本文四〇〇字以内(縦書きで掲載)

特集2

みんなの本棚

好きな作家や本(ジャンル不問)について語って下さい。
 ●タイトル
 ●本の名前や作家名でなくても構いません。
 ●お名前(ペンネーム可)
 ●四〇〇字以内の紹介文

特集1

私のつぶやき

ツイッターやインスタグラムにつぶやくみたいに。できれば写真やイラストを添えて下さい。(掲載時はモノクロとなります)
 ●お名前(ペンネーム可)
 ●ひとこと
 ●イラストや写真
 画像データをメールに添付。イラストの場合はハガキか封書でも受付(返却は不可)

掲載原稿募集

ジャンル不問。ご参加ご希望の方は、メールまたは電話で協会事務局までお申し込みください。

■参加掲載料

- (枚数は四百字詰原稿用紙換算枚数)
- 詩五枚以内 一〇〇〇円
- 俳句 二十句まで 一〇〇〇円
- 短歌 二十首まで 一〇〇〇円
- 小説・児童文学・エッセイ・書評・コラムなど二十枚まで 三〇〇〇円

※二十枚以上一枚追加ごとに百円追加
 原稿は編集委員が拝見し誤字脱字等をチェックいたします。小説部門は担当編集者が推敲し、一緒に仕上げてください。
 ◆プラス三千円で非会員の方もご参加できます。

■原稿受付期間

2023年10月5日
 2024年2月末

※『カクヲタノシム』とメールアドレスに記載してください。



ご応募いただいた方と会員の皆様全員に一冊無料進呈。

バックナンバー(創刊号・2号)を販売しています。
 ※3号は完売しました。税込660円+送料。

四国大学 第二回

瀬戸内寂聴 青春

エッセイコンクール開催

徳島県出身で、数多くの小説やエッセイを残した作家・瀬戸内寂聴氏の文学的功績を後世に伝えるために創設された、四国大学「瀬戸内寂聴青春エッセイコンクール」が第二回目の開催を迎えます。

徳島文学協会はこの賞に協賛し、大賞作品を文芸雑誌『徳島文学』に掲載します。

◆対象

高等学校在學生

◆応募規定

- 個人のエッセイ作品
- 一人一作品。四百字詰め原稿用紙換算五枚以内(タイトルを含む)

◆賞

- 大賞：一作品
- 優秀賞：三作品
- 奨励賞：六作品

※各賞の受賞者には、四国大学分野別入試の受験資格が与えられる。本入試を受験して入学すると、毎年四十万円の特別奨学金が四年間給付される。

※大賞は、受賞者の言葉と受賞作品を徳島文学協会発行の文芸雑誌『徳島文学』に掲載する。

詳細および応募用紙はこちらから
<https://www.shikoku-u.ac.jp/Sessay/02/>



四国大学 第四回

富士正晴 全国高校生 文学賞開催

徳島が輩出した著名な作家・富士正晴を顕彰し、さらに新たな才能を発掘するため創設された四国大学「富士正晴全国高校生文学賞」は、今年で開催四回目を迎えます。

徳島文学協会はこの賞に協賛し、大賞受賞作品を『徳島文学』に掲載します。

◆対象

高等学校在學生

◆応募規定

文芸雑誌に掲載された個人の小説作品もしくは個人の小説作品

◆賞

- 大賞：一作品
- 優秀賞：三作品
- 奨励賞：六作品
- 佳作：十作品

※大賞、優秀賞、奨励賞の受賞者には、四国大学分野別入試(文芸部門)A区分の受験資格が与えられる。本入試を受けて入学すると、毎年八十万円の特別奨学金が四年間給付される。
 ※佳作の受賞者には、四国大学分野別入試(文芸部門)B区分の受験資格が与えられる。本入試を受けて入学すると、毎年四十万円の特別奨学金が四年間給付される。

※大賞は、受賞者の言葉と受賞作品を徳島文学協会発行の文芸雑誌『徳島文学』に掲載する。

詳細および応募用紙はこちらから
<https://www.shikoku-u.ac.jp/m/asaharu/>



事務局日より いつも会員のみなさんの作品を楽しみにしています。今後のみなさんご応募をお待ちしています。

文学イベント案内

一部の講座に関して、非会員の皆様のご参加が可能になりました。
会場と Zoom 開催の両方で受付しているものもございます。
お申込みの際に、どちらでご参加するかお申し出ください。

【会場開催について】

感染状況等の都合により、開催を中止させていただく場合があります。
最新情報は徳島文学協会ホームページをご覧ください。

徳島文学協会ホームページ
イベント情報



短編小説講座

初心者から、短編小説の書き方を極めたい方まで、
どなたでもご参加いただけます。参加者の作品を俎上
に載せて合評したり、プロの作品を取り上げ講師が講
義を行ったりします。

- * 未完成作品の提出はご遠慮ください。
- * 阿波しらさぎ文学賞に応募予定のある作品の事前提
出はご遠慮ください。

- 開催日 ①10月14日(土) ②11月11日(土)
③12月16日(土)
全回19時～20時
- 開催方法 『Zoom』+会場 同時開催(ハイブリッド開催)
- 場 所 徳島県立文学書道館
- 参加費 会員のみ対象
作品提出: 会員3,000円/学生会員1,000円
参加のみ: 会員1,500円/学生会員500円
- 提出作品 原稿用紙50枚位まで
- 講 師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定 員 15人程度
- 締 切 開催日の10日前まで(先着順)

作品の提出方法

Microsoft Word ソフトで書かれた小説(400字詰め原稿用紙換算 50
枚程度まで)を事務局宛てにメール添付でお送りください。

- 講座参加費と作品提出料は、後日とりまとめた上、請求書と払込取扱
票を年2回お送りいたします。
- Zoomでの参加方法がわからない方に、無料でサポートしています。
お気軽にお問い合わせください。

小説エキスパート講座

全国公募の文学賞で最終選考程度の実力のある方や
プロの作家を目指している方。また、作品を提出した
上で講師からの指名があった方を中心に、本格的なス
パーリングを行います。参加のみはどなたでも可能で
す。

- * 未完成作品の提出はご遠慮ください。

- 開催日 ①9月16日(土) ②10月28日(土)
③11月25日(土) ④2024年1月6日(土)
全回21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 作品提出: 会員3,000円/学生会員1,000円
参加のみ: 会員1,500円/学生会員500円
非会員2,500円 ※
- 提出作品 原稿用紙50～200枚
- 講 師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定 員 10人程度
- 締 切 開催日の10日前まで(先着順)

作品の提出方法

Microsoft Word ソフトで書かれた小説(400字詰め原稿用紙換算 50
枚から 200枚程度)を事務局宛てにメール添付でお送りください。

※非会員の方のご参加について

「小説エキスパート講座」は非会員の方にもご参加いただけます。
ご参加希望の方は事務局までメールでお申込みください。

【ご参加の条件】

- ①Zoomの基本的な操作ができる
- ②事前に参加費を支払う(振込手数料はご負担ください)

ご入会や講座のお申込み・お問合せは徳島文学協会事務局まで

〒771-3201 徳島県名西郡神山町阿野字方子 103

TEL : 080-6284-0296 society@t-bungaku.com <https://www.t-bungaku.com/>

【文学賞等に受賞された方はお知らせください】

会員の皆様のご活躍を、「とと」や徳島文学協会のホームページでご紹介します。小説、俳句、短歌などの文学賞を受賞された方は、事務局までメ
ールでご連絡ください。賞の目安は授賞式に出席する程度です。

ホームページには小説のみ、「とと」には全てのジャンルの受賞実績を掲載予定です。(紙面の都合上、全てを掲載できない可能性があることをご了承
ください)

徳島文学協会 公式 SNS



tbungaku



tokusimabungaku



tokushimabungaku